

平成 30 年 5 月

学校法人冲永学園 中長期計画概要 (平成 30 年度～平成 34 年度)

学校法人冲永学園は、昭和 30 年の設立以来社会のニーズに対応した教育内容の改善と向上、組織の設置・改編、校舎及び施設設備の改装を重ね、現在は傘下に短期大学 1 校、高等学校 1 校、中学校 1 校、幼稚園 2 園を擁しています。本学園では、設立以来「礼儀・努力・誠実」を建学の精神とし、帝京大学グループとしてのメリットも活かしつつ、教育内容の充実に努めてまいりました。各学校のこれからの教育内容の方向性を確かなものにするために、教学面を中心に中長期計画を策定いたしました。

1. 帝京短期大学

本学では、創立以来「礼儀・努力・誠実」を建学の精神の柱として掲げ、建学の精神に基づいた人格を磨き社会に役立つ実学を重視してまいりました。

現代の社会においては、国際化、高度情報化、少子・高齢化が一段と加速し、価値観が複雑、多様化し、人材のあり方はますます変化しています。学歴社会から実力・資格社会へと大きく変貌するとともに、職業の専門化・細分化も進んでいます。そのため、各分野では確かな知識・技術をもち、かつ、物事に柔軟に対応できる充実した心や豊かな感性を兼ね備えた人材が強く求められています。

本学では、そうした社会状況や学生のニーズに的確に対応するべく、帝京大学グループならではのメリットも活かし、充実したカリキュラムを提供するとともに、さまざまな改変を試みてまいりました。

これらのことを踏まえつつ、本学では教育改革の方向性をより確固としたものとするために、教育および研究、学生への支援、社会への貢献、大学組織の改革、入試制度の改革を主な柱とする中長期計画を策定いたしました。今後も、「建学の精神」を堅持しつつ、この中長期計画の実現を目指して、本学における教育改革を推進してまいります。

| 目 標 | 計 画 |
|---|--|
| I. 教育・学生支援に関する計画 | |
| 1. 教育課程における教育内容の改善 | |
| (1)教育活動が大学の教育理念・目標を踏まえたものとなっているか検証評価し、教育の質を担保します。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己点検評価の組織を整備する。 2. 教育と学生支援の内容を検証評価するために、大学と学科の方針を策定する。 3. 点検評価の結果に基づいて改善策を実行する組織を設け、教育活動の質を向上させる。 |
| (2)時代の変化に即応し、カリキュラムの改定と授業内容を見直します。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラム改定に対応するため授業内容と方法を見直す。 2. 観光立国、オリンピック・パラリンピックなどの国際的なイベントの開催に照準を合わせ、カリキュラム改定と授業内容・方法を見直す。【生活科学科生活科学専攻生活文化コース】 3. これからの医療において、他の医療職と連携し高い専門性を発揮できる医療人を養成する。【ライフケア学科】 |
| (3)入学から卒業までの教育内容を体系的に学ぶことができるようにします。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスやカリキュラムマップの記載方法を定期的に見直す。 2. 体系的に学修することができるよう授業の実施方法を見直す。 |
| (4)単位の実質化を図ります。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の事前・事後学修時間を把握する。 2. 単位数に対して授業計画が適切か、シラバスを見直す。 |
| 2. 教育力の向上 | |
| (1)アクティブラーニング型授業の導入を推進します。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題発見・解決に向けて学生が主体的に学ぶアクティブラーニング型授業について、教員の理解や実践に役立つ研修を実施する。 |
| (2)学生による授業評価アンケート結果を授業改善とシラバス改善に結びつけます。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業評価アンケート結果を授業改善に結びつけるための検討を継続する。設問項目等を見直し、シラバス記載内容との関連性を高めることで、シラバスの改善と有効利用を推進する。 |
| (3)公開授業を通して教員の教育力を高めます。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 専任教員間で授業を公開し、参考になる点を学び、意見交換を行う。 2. 各自が関連科目の授業実態を知ること、自己の授業改善に役立てる。 |

| 3. 教育環境の整備 | |
|---|---|
| (1)学修支援のため、ICTを活用した教育システムを構築します。 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 課程を通じた学修の達成状況を、学生自らが点検し主体的に学ぶため、学修ポートフォリオシステムを導入する。 2. 図書館・ラーニングコモンズの利用を促進し教育指導の強化及びアクティブラーニングの支援を図る。 3. ICT活用の為に、学内コンピュータシステムの充実を図る。 4. ICTを活用した教育に不可欠な、コンピュータリテラシー教育及びデジタルネットワーク時代の著作権に関する理解・知識を教職員と学生に浸透させる。 |
| (2)学生及び教職員にとって適切な施設を提供するとともに、経営の効率化を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 老朽化した施設・設備の更新及び拡充により適切な教育研究環境を提供する。 |
| 4. 学生支援の充実 | |
| (1)心身に問題を抱えた学生に対する相談体制を充実していきます。 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 学生支援に関連する部署の役割を明確にし、連携・協働して心身上の問題に当たる。 |
| (2)経済的理由により修学が困難となった学生に対する支援を充実させます。 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 奨学金制度の拡充を図る。 2. 自然災害に対する支援を充実させる。 |
| (3)就職・進学に対するサポート体制を強化します。 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 学生一人ひとりの多様なニーズに対応できるよう情報を収集し、就職活動の相談を充実させる。 |

| 目 標 | 計 画 |
|------------------------|--|
| II. 研究に関する計画 | |
| 1. 研究拠点化の推進 | |
| (1)研究拠点の形成を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 社会的要請の高い研究や共同研究を推進する。 |
| 2. 研究資金の確保 | |
| (1)教育の基礎となる研究の充実に図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 外部研究資金の獲得に努める。 |

| 目 標 | 計 画 |
|---|---|
| Ⅲ 大学運営組織の改善 | |
| 1. 組織の改革 | |
| (1) 学科・専攻・コース等の改編を検討します。 | 1. グローバル化や産業構造など、社会の変化に対応するため、また、今日の学生の社会人としての意識を醸成するため、学科・専攻・コース等の改組・改編について検討する。 |
| (2) 大学の運営に関する危機管理体制の強化を留めます。 | 1. 自然災害等の緊急時に迅速な対応ができるように、危機管理体制を強化する。 2. 自然災害やサイバー攻撃等を想定し、情報システムに関するセキュリティ対策強化、ポリシー策定を行い、事業の安全性と継続性を担保する。 |
| 2. 自己点検・評価活動の推進 | |
| (1) 自己点検評価を行い、大学運営の改善に反映させます。 | 1. 自己点検評価を定期的実施し、恒常的な PDCA 実施体制を確立する。 |
| (2) 教育研究活動等の情報の公表に努め、高等教育機関としての社会的説明責任を果たします。 | 1. 情報公開及び広報活動の内容・方法を点検し、改善を行う。 2. 多様な手段を用いて、大学の教育研究に関する広報活動を行う。 3. 資格取得など学び直しの場合としての広報活動を検討する。 |
| 3. 安定した財務基盤の維持 | |
| (1) 志願者増・学生確保に取組みます。 | 1. 優秀な学生を継続的に確保するため、広報活動を強化するとともに、多様な学生に対応した入試制度を整備する。 2. 通信教育の課程・制度を検討し、志願者を増加させる。 |
| 4. SD(スタッフ・ディベロップメント) の推進 | |
| (1) 教職協働体制をさらに推進します。 | 1. 教職協働で新しい課題に取り組む組織を構築していく。 |

| 目 標 | 計 画 |
|---|--|
| IV. 入試制度改革 | |
| 1. 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）に基づいた入学者選抜の実施 | |
| (1)入学者受入れの方針に基づいた適切な学生募集の展開及び入学者選抜を実施します。 | 1. 入学者受入れの方針が卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成実施の方針を踏まえているかを点検する。 2. 入学志願者に対して、入学者受入れの方針に関する情報の提供を行う。 |
| 2. 新たな入試改革を見据えた高大接続の推進 | |
| (1)高校生の学習・進学に対する意欲向上を目的として、高大連携を検討していきます。 | 1. 高等学校の教育を踏まえた入学者選抜体制を整備する。 |

2. 帝京八王子中学・高等学校

【教育指導方針】

知・徳・体の全人教育を、生徒の個性と発達段階に即して行い、健全な育成を期することを教育目標とします。努力をすべての礎として、教育目標達成の手段として校訓「礼儀・努力・誠実」を定め、入学した生徒が一人の例外なく大きな成長を遂げて卒業し、更に希望進路を実現できるよう、面倒見よく愛情に裏打ちされた厳しさの中にも暖かさをもった教育・指導・助言を行います。また、それらを実現させるため、IT 機器の利用や協働学習など先進性を重視して教職員への研修を計画的に実施いたします。

生徒募集から進路指導まで全体的な底上げを行い、広報・教務・生徒指導・進路指導・事務局が協力し合って本校の魅力を高める取り組みを行います。広報は説明会の時間や内容の見直しを行い、教務部では特進医療系Ⅰ類・Ⅱ類などへのカリキュラム変更などを行いました。進路指導部はより高い進路実績を実現するため、研究と指導を行うとともに高大接続に関連してアクティブラーニングについて情報収集と研究・実践に取り組んでまいります。

【大学入試・中高一貫教育】

大学入試改革に向けた取り組みとして重視される「読む」「聞く」「話す」「書く」という4技能や、「思考力」「判断力」「表現力」を培うために、日常の記録を文章に表しポートフォリオにしていく取り組みを行ってまいります。さらに総合的な学習では自己や社会に関するテーマを設定し、グループワーク、プレゼンテーションを通して思考力、表現力、問題解決に向けての協働する力を養成してまいります。

また中学での先取り教育を止め、主体的・対話的で深い学びの実現や、総合的な学習の時間を読解力と表現力の向上に焦点を当てた取り組みを行うためカリキュラム変更を行いました。

た。文系の進路強化策としてクラス編成方法を変え、0時間目の特別講義を導入するなど、学内の学力向上対策を行っています。

【生徒募集】

平成26年6月に竣工した新体育館「蔦永館」などを活用し、より優れた教育を行い、それを広く地域社会に周知することにより、本校の教育に適性を持つ生徒のより多くの入学の実現を図ります。学校新聞を創刊し、近隣の中学校や塾も含めて帝京八王子の取り組みを広く周知し、生徒募集活動に繋げています。

【IT教育・その他】

IT関連では全校の無線LAN環境やサーバー、タブレットの導入など、その活用方法やコンテンツのより望ましい形を見極めるため情報収集の上導入を図ります。本学は遠隔地にあるため、羽村駅や箱根ヶ崎駅発のスクールバス運行路線拡大と既存路線の見直しを進め、生徒の登下校の利便性向上を図ってまいります。

3. 帝京めぐみ幼稚園

「よく見る」「よく聞く」「いろいろ体験する」を保育の重点とし、遊びの充実を図り、自己発揮する子どもを育てます。よく考える子ども、進んで行動する子ども、心動かし感動する子どもの育成をこれからも教育目標としてまいります。具体的には、身近な動物への触れ合いを通して「思いやり」「優しさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を引き続き実施いたします。また、帝京短期大学食物栄養専攻学生による給食を取り入れた食育を実施しています。さらに、帝京短期大学キャンパスを利用した活動や自然体験、花壇や畑作業、地域の小中学生の職場体験受入や幼稚園内外の様々な人々とのかかわりなど、これからも社会体験、直接体験のできる場を取り入れてまいります。また、園児の健やかな発育を促す施設設備の更新に努めてまいります。

4. 帝京にしき幼稚園

本園は学齢前の幼児を幼児にふさわしい教育環境の中で保育し、「よくみる。よくきく・よくする」をモットーとし、自己を発揮できるよう、のびのびできる環境のもと、礼儀正しく、思いやりのある心を持つ子どもの育成をめざしてまいります。また、園行事や日常の活動を通して造形、身体、音楽など表現する楽しさや感動する心を育てます。

子どもたち一人ひとりの力を信じ、これからの時代に必要な「自分で考える力」を育むため、教員一人ひとりが子どもたちの自己が発揮できるよう寄り添っています。そのためには、指導計画立案の充実を図り、幼児の発達を見通し、その発達が可能となるよう、それぞれの時期に必要な教育内容を明らかにし、計画性のある指導を行います。また、園児の健やかな発育を促す施設設備の更新に努めてまいります。

以上